全国健康保険協会 山形支部
協会けんぽ

Press Release

報道関係者　各位

令和3年5月6日
（照会先）
全国健康保険協会山形支部
企画総務グループ　菅野・安達
電話：023-629-7226

令和2年度の山形支部のジェネリック医薬品への切り替え率、全国第1位

協会けんぽでは、増え続ける医療費の抑制や加入者のお薬代の負担軽減のために、先発薬と比べ価格が安い「ジェネリック医薬品」の普及推進を目指した取組みを行っています。

その取組みの一環として、先発薬を服用している方が、処方されたお薬をジェネリック医薬品に切替えた場合に、どのくらいお薬代（薬剤料）の自己負担額が軽減されるのか試算した「ジェネリック医薬品軽減額通知」を自己負担額が一定額以上お安くなる方へ年2回（例年8月・2月）お送りしております。

このたび、令和2年8月に「ジェネリック医薬品軽減額通知」の送付を実施したところ、山形支部における切替率が34.4%となり、全国第1位の結果になりましたので公表いたします。

R2.8 送付分	送付者数	切替者数	切替率	切替率 順位	軽減効果額
山形	35,428人	12,176人	34.4%	1位	21,387,580円
全国	3,688,798人	1,042,699人	28.3%	-	1,835,247,241円

＜令和2年8月送付分　ジェネリック医薬品軽減額通知の概要＞

○通知対象診療月

令和2年2・3・4月診療分

○通知書等の送付月

令和2年8月

○効果検証月

令和2年9月診療分

○通知対象医薬品

慢性疾患（リウマチ、喘息）、生活習慣病（糖尿病、高血圧症）の治療薬を始めとする、長期間（14日以上）継続して服用することが考えられる医薬品を対象。

（ただし、がん治療薬、精神疾患治療薬、ＨＩＶ治療薬、ジキタリス製剤を除く。）

○通知対象年齢

15歳以上の加入者

○軽減可能額の基準

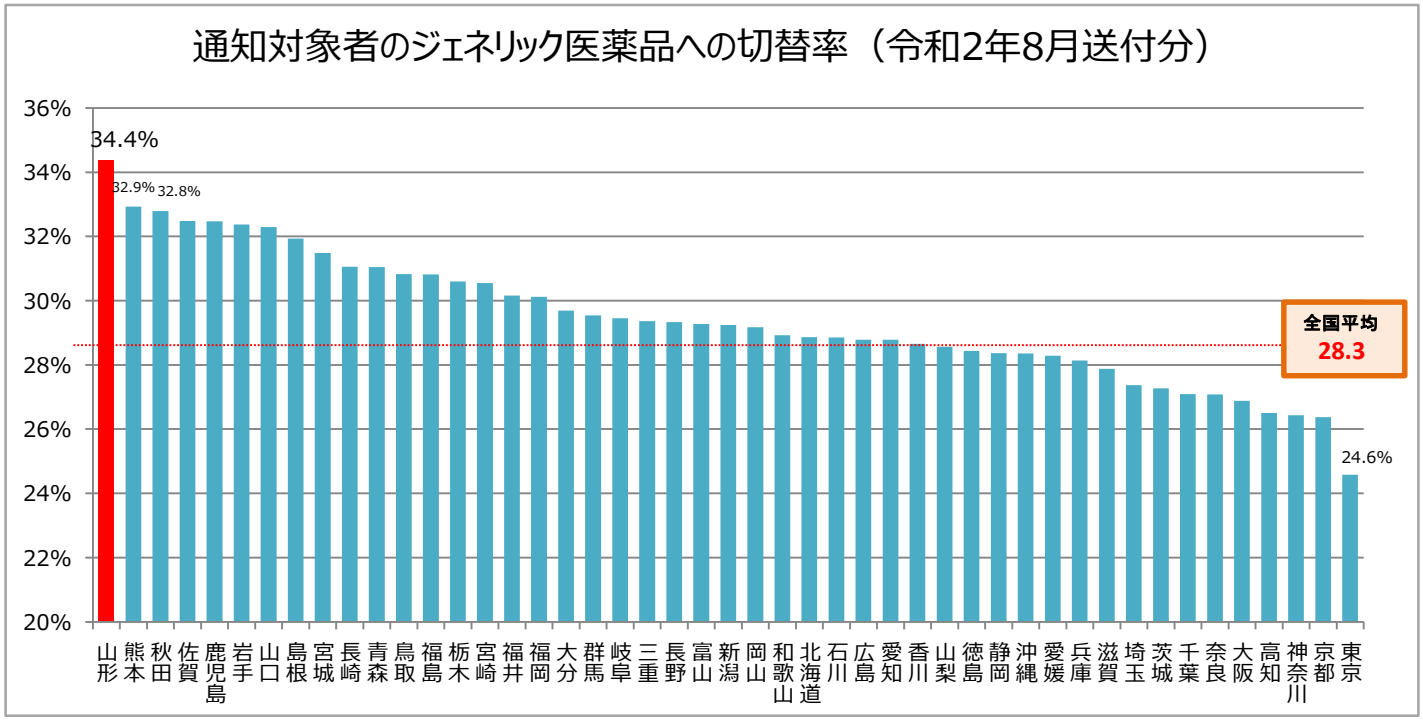
医科（病院・診療所等で薬をもらっている方）：500円以上

調剤（薬局で薬をもらっている方）：50円以上

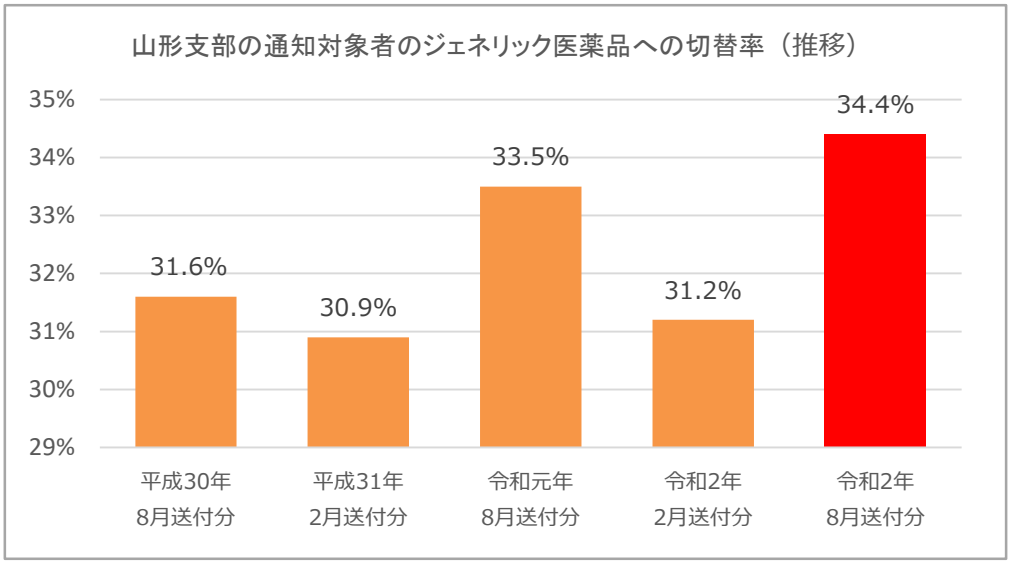
全国健康保険協会 山形支部
協会けんぽ

Press Release

山形支部における通知対象者のジェネリック医薬品への切替率は34.4%となり、2位以下の支部を大きく引き離しております。



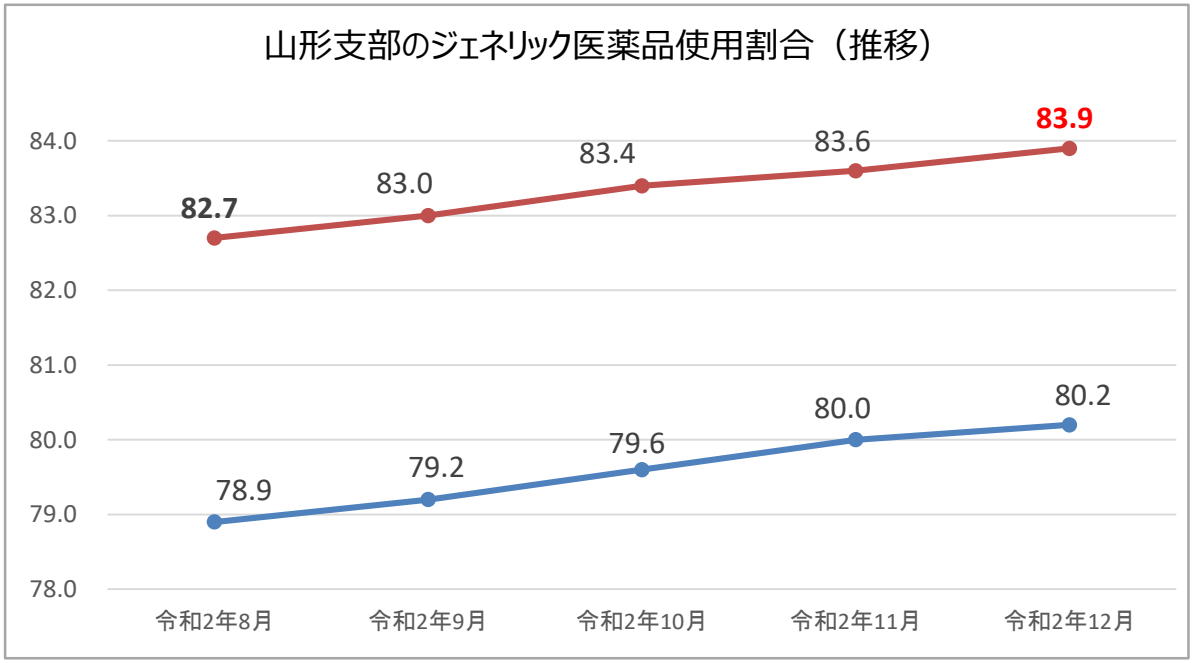
平成30年度から令和2年度の本事業のジェネリック医薬品への切替率の推移をみると、いずれも全国第4位以内と高い順位を維持しており、直近の2回（令和2年8月送付分及び令和2年2月送付分）については全国第1位の切替率となっています。



年度 回目	切替率	順位
平成30年 8月送付分	31.6	3位
平成31年 2月送付分	30.9	4位
令和元年 8月送付分	33.5	2位
令和2年 2月送付分	31.2	1位
令和2年 8月送付分	34.4	1位

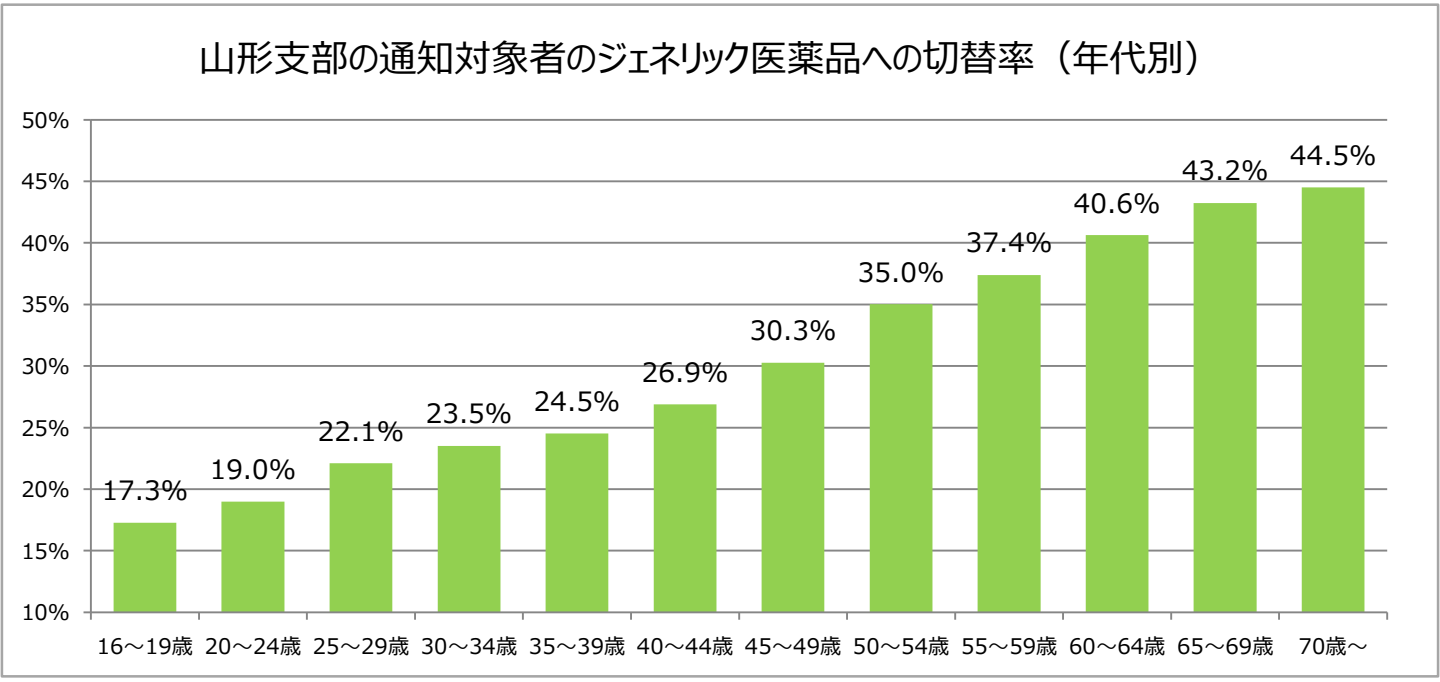
山形支部のジェネリック医薬品の使用割合は、ジェネリック医薬品軽減額通知を送付した令和2年8月の時点で82.7%（全国第4位）と非常に高い使用割合となっております。

山形支部においては、元々高い使用割合であるにもかかわらず、通知による切替率が全国第1位であったことも加えて、9月以降についても順調に使用割合が伸びています。



	山形	全国
令和2年8月	82.7	78.9
令和2年9月	83.0	79.2
令和2年10月	83.4	79.6
令和2年11月	83.6	80.0
令和2年12月	83.9	80.2

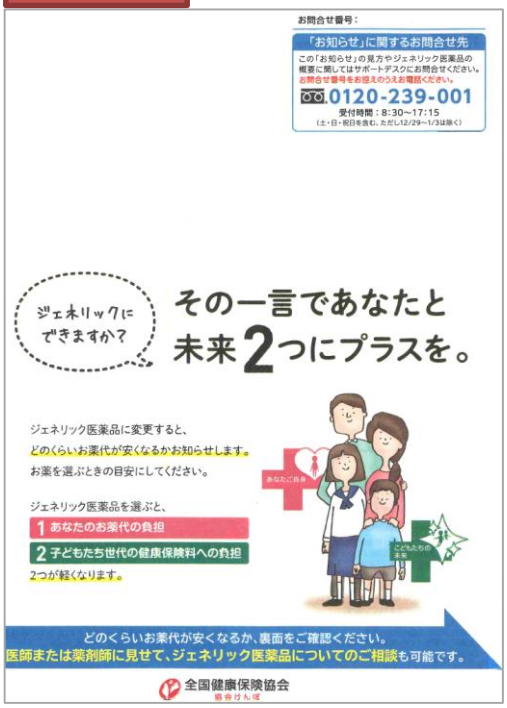
ジェネリック医薬品軽減額通知を送付した方の、ジェネリック医薬品への切替率を年代別にみると、年代の上昇に比例して切替率も上昇していることがわかります。これは、年齢が上がるほど健康リスクが高まることから通知対象となる薬剤の種類が増え、それに伴い、ジェネリック医薬品へ切替えた場合のお薬代の軽減額が上昇することから、切替に対する動機付けが大きくなっていることが推測されます。



年齢区分	送付人数	切替人数	切替率
16～19歳	1,628	281	17.3%
20～24歳	1,090	207	19.0%
25～29歳	1,162	257	22.1%
30～34歳	1,650	388	23.5%
35～39歳	2,145	526	24.5%
40～44歳	2,682	721	26.9%
45～49歳	3,079	932	30.3%
50～54歳	3,479	1,218	35.0%
55～59歳	4,413	1,650	37.4%
60～64歳	5,615	2,281	40.6%
65～69歳	4,832	2,089	43.2%
70歳～	3,653	1,626	44.5%
合計	35,428	12,176	34.4%

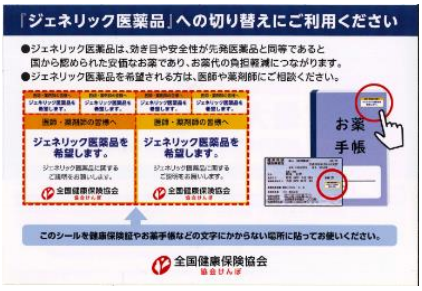
○軽減額通知サンプル

見本（表）



見本（裏）

○ジェネリック医薬品切替希望シール



協会けんぽでは、今後もこれら「ジェネリック医薬品軽減額通知」等の取組みを通じ、加入者の窓口負担軽減のため、また、医療費の増大による加入者の保険料負担の上昇抑制のため、引き続きジェネリック医薬品の「安全性・経済性」を訴えかけると共に、「ジェネリック医薬品の普及により国の医療費が抑制され、日本の医療保険制度の維持につながる」ことを周知してまいりたいと存じます。

つきましては、報道機関の皆様におかれましても、「山形支部はジェネリック医薬品の使用割合が全国第4位と高い状況であり、また、ジェネリック医薬品軽減額通知により、先発医薬品からジェネリック医薬品に切替えた方の割合が全国第1位であること」について、是非、各種報道にて取り上げていただきますようお願い申し上げます。